

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 言語教育センター

| | 組織目標 | 達成状況(成果) |
|---|---|---|
| 教 育 | <p>1. 初年次英語教育について、学生の英語のレベルごとに教育効果の向上を図るため、授業内容の検討やFD研修を実施する。</p> <p>2. 授業時間外学習の促進のため、イングリッシュ・カフェのさらなる充実、並びに自主学習施設の改良を行う。初修外国語の語種ごとの到達目標をより明確にしシラバスに反映させる。</p> <p>3. 社会人の日本語教育副専攻コースへの受け入れを開始し、学部生対象の同コースとの連携を含めた円滑な運営体制の構築を図る。</p> <p>4. 日本語コースwebシステムで蓄積したデータベース及び授業アンケート等の検証を行い、必要に応じてカリキュラムを見直すとともに、教育内容等の改善等を目的としたFDを推進する。</p> <p>5. 異文化への理解を促進するため、留学生との交流事業および海外協定校との交流プログラムを実施する。</p> | <p>1. 英語系では、教育効果の向上を図るため、5月、6月、8月、11月に教授法検討会を、7月にTeacher Development Workshopを実施し、課題や改善点を検討した。Teacher Development Workshop (FD活動)の一環として、2月開催のThe Fourth Annual Extensive Reading in Japan SeminarをJALT多読研究部会ならびにJALT岡山支部とともに協賛し参加した。</p> <p>・英語系では、7月に自主学習に関するアンケートを実施し、結果分析を行った。基礎英語についての対応およびALC NetAcademy2の進め方については、Teacher Handbookに掲載した。</p> <p>・英語系では、ALC NetAcademy2の利用方法の説明会を4月に実施した。基礎英語について個別のクラスでは対応が困難なため、後期は、履修説明会後、集まった学生全員にALC教材を体験させた。</p> <p>2. 英語系では、イングリッシュ・カフェ利用者のニーズに対応するため、レッスン時間を12コマから17コマに拡大し、また学生スタッフを増員した。</p> <p>・イングリッシュ・カフェでの自主学習の促進に向けて、学生にアドバイスをを行い、TOEFLクラスと単語クラスのクラス外での自主的な学習につながった。</p> <p>・理事裁量経費により、教材管理及び貸出のための図書管理システムを導入した。貸出業務担当者がデータを入力し、一般教育棟A12で10月中旬から、書籍の貸出を開始した。</p> <p>3. 日本語教育副専攻コースへの社会人の受け入れを開始し、本コースの周知のため、岡山大学HP上に社会人向けの案内を作成すると共に、岡山県内の22の日本語ボランティア教室運営団体及び岡山県企画振興部国際課にコース案内を送付した。</p> <p>4.カリキュラムを検討し、今年度より中級レベルのクラスを技能別から4技能を含んだ総合クラスに変更した。またFDとして研究会を8回開催した。</p> <p>5. 英語系では、本学学生と留学生との交流を目的としたInternational Nightを開催した。また、初修外国語系では、協定校である韓国成均館大学校生を招いた交流プログラムを開催する一方で、成均館大学校夏季韓国語講座に本学学生を派遣した。</p> |
| | 達成度: | ④ 3 2 1 |
| 研 究 | <p>1. 英語においては、学生の自学自習を支援するための方法等に関する研究を進める。</p> <p>2. 初修外国語各語種共通の教授法改善に関する研究を進める。</p> <p>3. センター全体で、教材の改善と有効な利用法の検討を行う。</p> | <p>1. 「上級英語・E-ラーニングプロジェクト」が学内COE教育支援経費として8月に採択通知があり、3年計画の1年目の授業として、後期にE-ラーニング教材を利用した2つの授業を開講した。自宅で利用できるE-ラーニング教材による自主学習の効果を検証するため10月末と1月末にTOEIC試験を行った。本プロジェクトの1月末までの結果報告は年報に掲載した。2月以降も学生へのインタビュー分析を行っている。</p> <p>・「英語学習習慣等に関するアンケート」を実施し、分析結果を年報に掲載した。</p> <p>2. 初修外国語系では、シラバスの記載事項を改善し、また特別公開講座を開催して、外国語教育法などについて新たな視点を得た。</p> <p>3. 英語系では、英語系教員が編集し完成した読解用英語テキストの教材を前期から使用し、7月に学生アンケートを実施した。テキスト利用の概要は、10月に岡山英文学会のシンポジウムにおいて発表した。アンケート分析は『大学教育研究紀要第6号』(22年12月)に掲載した。</p> |
| | 達成度: | ④ 3 2 1 |
| セ ン タ ー 業 務 | <p>共通外国語教育の立案・実施・改善に責任を持ち、全学的な観点から以下の業務を主導的に進める。</p> <p>1. 共通外国語教育(大学院を含む)の実施計画策定とその遂行</p> <p>2. 外国語教育FD活動の実施</p> <p>3. 国際交流・連携事業の実施</p> <p>4. イングリッシュ・カフェ、語学学習室および関連施設の管理・運営</p> <p>5. 言語・外国語文化に関する、地域社会との連携事業の実施</p> <p>6. 本学における外国語教育実施状況とその成果の広報</p> <p>7. 外国語教授法研究・異文化研究の推進と支援</p> | <p>1. 英語系初修外国語系ともに作業部会が中心となり、カリキュラムに基づく時間割の策定及びその実施に必要な業務を遂行した。</p> <p>2. 英語系では、公開講座、特別公開講座、Teacher Development Workshop、My Share、Reading Groupを開催した。また、ALC NetAcademy 2の利用方法説明会を実施した。初修外国語系では、教授法検討作業部会が中心となり、シラバスに記載する到達目標、主題科目について検討を行った。日本語系では教育方法研究会を8回開催した。</p> <p>3. 国際交流事業として、英語系では、International Nightを、初修系では、韓国成均館大学校交流プログラムを開催した。また、高大連携事業として、高校生のための大学講座・英語特別講座及びEnglish on Campusを開催した。</p> <p>4. 語学学習室運営部会が中心となり、語学演習室兼自習室の設備更新及びLL教室の施設利用希望調査を行った。初修外国語系ではドイツ語と中国語のカフェを開設した。</p> <p>5. 独検及び仏検の試験会場責任者を務めた。また、韓国語能力試験の実施を支援した。</p> <p>6. 公開講座及び特別公開講座を開催した。</p> <p>7. 年報及び言語教育センターパンフレットを発行するとともに、随時、言語教育センターのホームページを更新した。</p> <p>8. 英語系では、Teacher Development Workshop、公開講座、特別公開講座、My Share、Reading Groupを実施した。初修外国語系では、特別公開講座を開催し、外国語教育法などについて新たな視点を得た。</p> |
| | 達成度: | ④ 3 2 1 |
| 社 会 貢 献 | <p>1. 外国語の学習を通して人と文化についての理解を深めるという視点から以下の業務を主体的に進める。</p> <p>① 一般市民に公開された講座や講演を実施する。</p> <p>② 英語を共通言語とする異文化理解のための公開行事を実施する。</p> <p>2. 語学に関する外部の検定試験の実施を支援する。</p> <p>3. 高校生などを対象に大学における英語授業を体験する機会を設ける。</p> | <p>1. ① 公開講座及び特別公開講座を開催した。②International Nightを開催した。</p> <p>2. 独検及び仏検の試験会場責任者を務めた。また、韓国語能力試験の実施を支援した。</p> <p>3. 高大連携事業として、高校生のための大学講座・英語特別講座及びEnglish on Campusを開催した。金光学園高校と朝日高等学校からの大学訪問に際し、授業見学もしくは模擬授業、質問タイムで対応した。</p> |
| | 達成度: | ④ 3 2 1 |
| <p>【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。</p> <p>平成22年度の組織目標の全ての項目に対して、構成教員がやれる限りの努力をして、100%以上の成果を上げられたと総括できる。ただ、その成果を数字で表せないもので、引き続き活発な活動を継続し、データを整理して、数年後にその評価を判断する。また、イングリッシュ・カフェへの参加者が多いので、カフェのスペース拡張について今後も努力する。</p> | | |

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。